

事業名	アートをキーワードとしたまちづくり
実施主体	益田まちづくり塾
県担当課	文化国際課

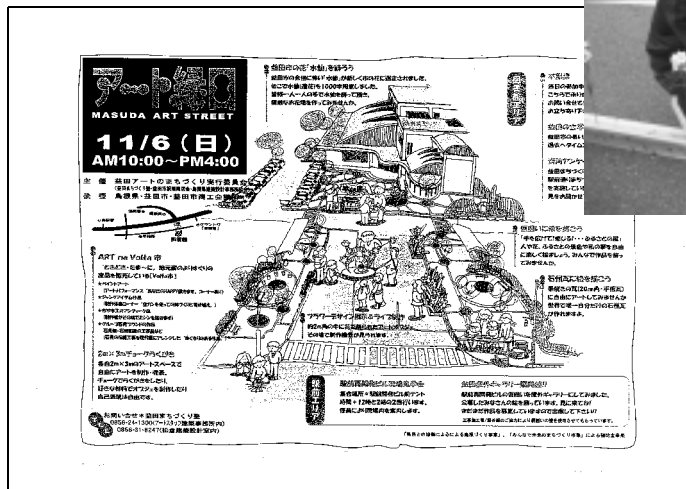
事業の成果

事業の目的 [地域づくり]

- 「アート」をキーワードとしたまちづくりに取り組むことで、地元の意識を高め、新しい体制づくりを可能にする。

事業の内容

- 誰でも参加でき、長期的ビジョンを話し合う継続性のある会として、益田まちづくり会議を設置した。
- アートプログラムの創出(市民オープンギャラリー)として、市内で絵を描いている方を公募し、益田駅前再開発ビル仮囲いに展示した。市内の絵画グループと商店会の協力体制が築けるよう「まちづくり会議」のなかで戦略を構築した。
- 市民参加型の野外型イベントとして、アート縁日を開催した。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- アートをテーマにした野外型のイベント「アート縁日」で、いろいろなプログラムを企画・実行した。予想以上に多くの人で賑わうイベントとなり、成功を収めた。
- 市民オープンギャラリーは、市民の関心を引き、美術館のある街としての雰囲気づくりに貢献したと思われる。
- アンケートからも継続的に開催して欲しいとの声が9割以上占めた。
- 外の人(学芸員他)の考えや、力をうまく借りたことが成功した一つの要因だと思う。

反省点・改善点

- 運営会議を重ねる中で、今回の企画内容が長期に渡るためタスクフォースの中心になるメンバーがもう少し広がりがあったほうが良かった。

協働の効果

県との協働内容 [協働しなかった]

- 協働相手がずっと松江にいらなかったため(一度も参加無し)、現地のグラントワ関係者や総務事務所の職員と相談しながら実施。
- 県の組織の理解不足があり、窓口になる担当課が地元にあると考えていた。

県への要望事項

- 協働の窓口は一つにしてほしい。

反省点・改善点 [特にない]

市町村との協働 [協働して実施した]

- 県があてにならないし、益田市とは密に連絡を取り合って行った。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 「アート」の主役である「アーティスト」の方々とは、次回に向けて協力体制を継続している。
- 「アート縁日」のようなイベントについては、恒例のイベントとして定着化させることが重要である。

事業の継続状況 [継続実施していない]

- 本年度は、協働事業に応募せず、他の助成金を受けている。
- ただ、その中でも「アート」のキーワードは忘れないよう実施していく予定。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 本当の意味で協力体制が築けるなら、大いに発展させることは可能。
- イベント実施にあたっては、多額の費用が必要となるが、官民が知恵を出し合い、新たな収益を生む方策も考えながら、無理のない、無駄のないイベント事業として組み立てていくことが必要である。

